

別紙2-3 (様式2)

18・19年度我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業研究成果報告書

ふりがな	いしかわけんりつこうぎょうこうとうがっこう
学校名	石川県立工業高等学校

校長名：山本 和男

I 学校の概要

1 学校・地域の特徴

石川県では加賀友禅や牛首紬、能登上布などの伝統産業が継承されており、それらの繊維製品は伝統工芸品として広く愛用され、繊維文化として人々の生活に根付いている。本校のテキスタイル工学科は県内唯一の繊維系学科として地域の産業に貢献できる人材を育成してきた。

2 学校の概要 (平成19年5月1日現在)

課程	学科	1年		2年		3年		計	
		学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
全日制	テキスタイル工学科	1	37	1	40	1	38	3	115

II 研究の内容及び成果等

1 研究主題

(1) 研究主題

「文化としての繊維を学び、豊かな心をはぐくむ教育の取り組み」 ～繊維実習を通して、ふるさとの伝統文化を理解する～

(2) 研究のねらい

機織り、草木染、組紐などの繊維実習を通して、繊維の基礎・基本となる知識や技能を習得するとともに、伝統産業として継承され、地域や暮らしに根ざした繊維の文化について理解を深めながら、豊かな心をはぐくむ。

2 研究の取組概要等

(1) 取組の概要

①学校開放講座

学校開放講座「初めての染織体験講座」を実施した。教職員と生徒が協力しながら、一般を対象に、草木染・組紐・手織りの講座を

合計4回(12時間)実施した。

②外部講師との連携

専門家に実習(組紐・手織り)を指導をして頂き、指導者としての技術力向上を図った。

③地域交流

近くの小学校を訪問し、組紐制作の交流実習を実施し、異世代との交流を図った。

(2) 指導の実際

①学校開放講座「初めての染織体験講座」



草木染

(受講生の感想)初めての経験でしたが、とても楽しかった。また、このような講座があれば受講したい。

②外部講師との連携「手織り実習」



手織り

(生徒の感想)整経するのが大変でしたが、織っている時が一番楽しかった。織りの技術が向上して良かった。

③地域交流「金沢市立味噌蔵町小学校訪問」



組紐交流

(児童の感想)高校生が優しく教えてくれてうまくできた。最初はゆっくりしかできなかったけど、慣れると早くできた。

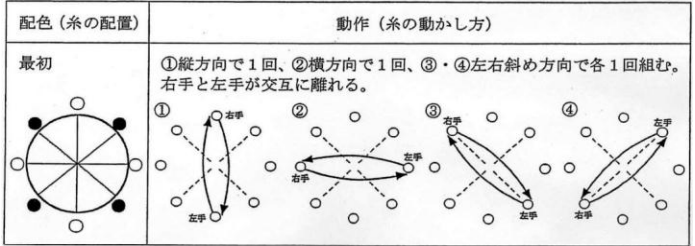
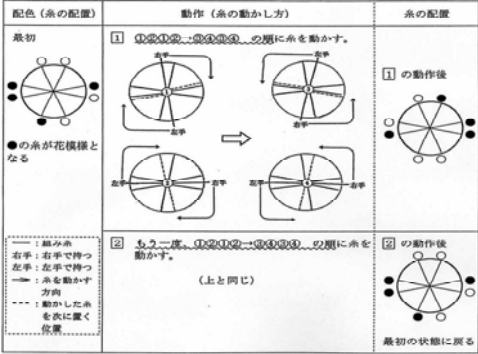
3 成果と課題

- ・開放講座の募集広報や新聞掲載により、取組を広く人々に知ってもらうことができた。
- ・外部講師との連携により、生徒や教職員の技能の向上を図ることができた。
- ・児童との交流では、生徒自らの理解が深まりものづくりの達成感を味わいながら、お互いに楽しく交流することができた。
- ・準備に時間がかかり講師に頼る事になった。
- ・組台等の専用の道具を講師から借用したが、取組を継続させるには、道具の整備や指導者の更なる技術の向上が必要である。

III 指導事例

都道府県・指定都市名 石川県

学校名 石川県立工業高等学校

教科等	実習	学年	2年	単元名	伝統文化 交流実習
題材のねらい		<ul style="list-style-type: none"> <li>組紐制作を通して、加賀百万石の歴史と伝統工芸について理解を深めながら、心を込めたものづくりに取り組む。</li> <li>異世代との交流を体験することにより、人との関わりや出会いを大切にする心を育てる。</li> </ul>			
取り扱う伝統文化		組紐（加賀百万石の歴史と伝統工芸）			
◇題材の概要					
地域の小学校を訪問し、生徒が児童に組紐づくりを指導し、キーホルダーを作成する。交流を通して地域社会に貢献する姿勢を養い、出会いやものづくりの楽しさを共有する。					
◇題材の指導計画（全6時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の指導、取組体制（外部人材の活用等含む）等	
3	[準備] ・組台に糸を掛け、準備する。 ・指導の手順を確認する。			・外部講師と連携し、準備や指導の手順について確認する。	
3	[交流実習] ①説明を聞く ・組紐の歴史や魅力について学ぶ。 ②組紐制作 ・生徒の説明を受けながら、児童が組紐を制作する。 (仕上げ) ・キーホルダーに仕上げる。 ・他と比較したりしながら、自分で作った喜びを実感する。 (応用) ・意欲の高い児童は他の技法「梅花」を体験する。 (かたづけ) ・後かたづけをする。 (アンケート) ・アンケートを記入する。			・加賀藩五代藩主前田綱紀が残した「百工比照」を紹介し、石川県に伝統工芸が栄えた理由を考えさせる。 ・外部講師にお手本を示してもらおう。 「鎖つなぎ組」：糸の動かし方が容易で初心者にも分かりやすい組み方。  「梅花」：花の模様が浮かび上がる組み方。  ・集中力の途切れた児童には助けを申し、生徒とのコミュニケーションを図らせる。 ・生徒にもアンケートを実施し、事後指導に役立てる。	
◇本事例による成果と課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童に指導することにより、生徒自らの理解が深まり、大きな達成感が得られた。</li> <li>児童との触れ合いから、出会いのすばらしさを感じることができた。</li> <li>郷土の歴史を学ぶことで、郷土に誇りを持ち、伝統を継承しようとする心が芽生えた。</li> <li>準備に多大な時間と労力が掛かり、外部講師に大きな負担が掛かってしまった。</li> <li>組台等の専用道具を外部講師から借用したが、継続するには道具の整備が必要である。</li> </ul>					
◇参考資料					
『百工比照』－前田育徳会の名宝－、石川県立美術館 開館10周年記念特別展図録					